

續々膝栗毛二編

上





13
1164
51

續々 膝栗毛 二編 序

繪守切子 蛭切をぬくくうせ 唐

哉 丹 鉄 釘 の 折 き を い せ ら ぬ 意


三 流 子 取 を か く だ ぬ 意 毎 所 流

と 年 子 十 七 附 一 ぬ 練 栗 毛 も

に 類 して 肩 を 袷 ぬ 耳 と ぬ 入

鼻をの神田のハ西の穴の附の
 夢と志と白の元とうとては續く
 編の見世をひくまししとは河童小尾
 の尾乃志をもくをく風の非小の葉
 粉の火を依るようもは浮雲かりしと
 祥の子物の産の産の産の産の産
 散

元の然の皮を多くふくあらうの心
 二輪を注文しくますの不信の産を
 きく夫丹もも石を子を馬を糸を掛け足
 かの心を身をれれ心を心を心を心を
 ちの心を心を心を心を心を心を

卯之月 十五夜丁九志真




續々膝栗毛二編追加

全一冊續而出来

此編ハ新編トシテ謝ラ

新編ハ新編トシテ謝ラ

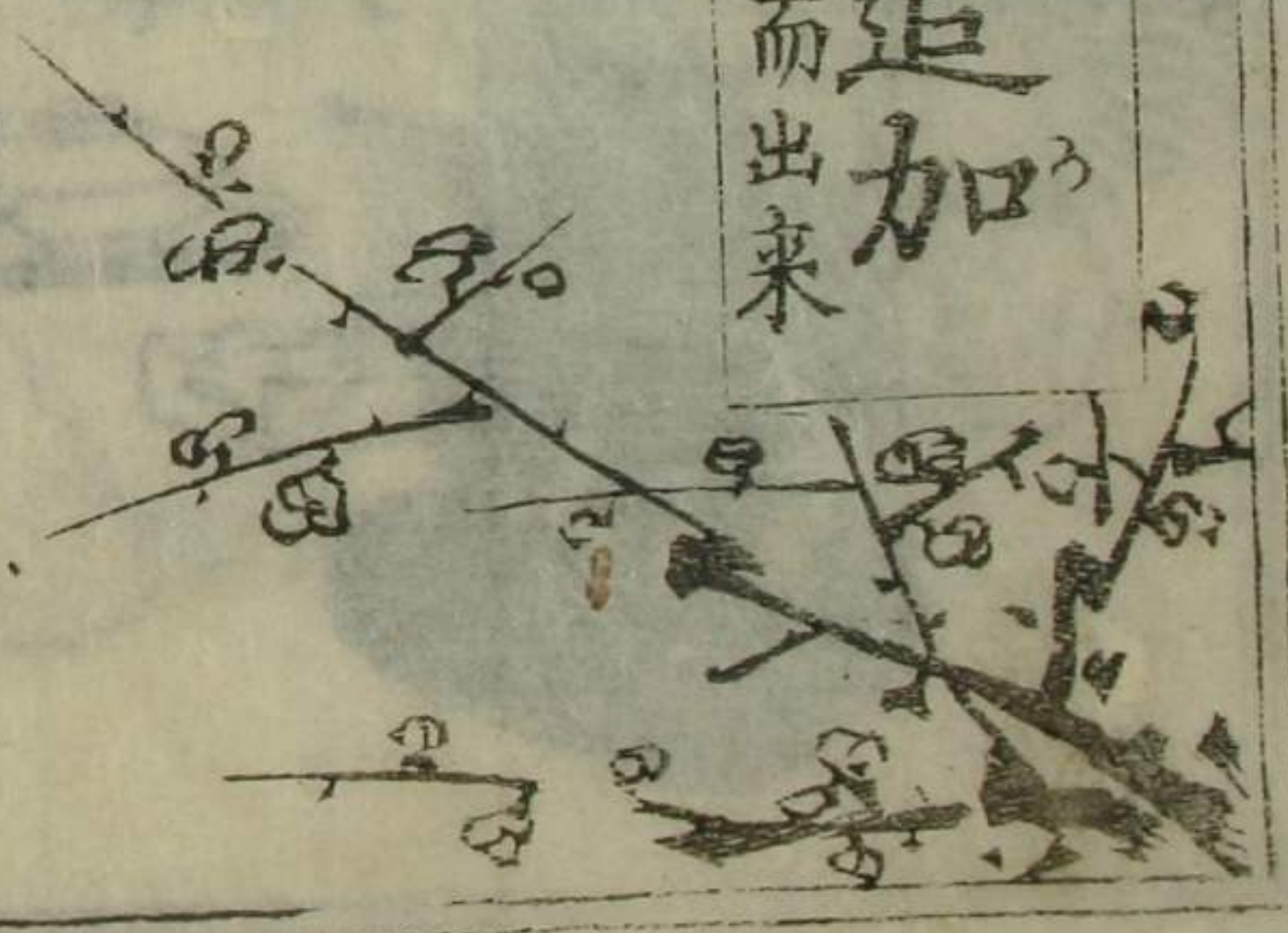
松山編行へ糸指の報向

作者は腹母のそのとら

そのあんど引つゞき劇刻

差のそゝ遠日出板

涌泉堂欽白



續々膝栗毛二編上

十返舎一九著

あゝあゝの人れ花も帯りつゝふハ
うこそりや謔言らん今一声と慕ひぬ
時鳥も片田舎け人ハ女まゝととく耳塞ぐ
さやささやいふ異ありとおの事も常と
なりてと珍しくくろ孫どいつとても飽ぬ
あ八月廿夜と米の飯きてハ色と酒のよれ中

鬼も十七のおまむろく娘が立派な著勝里出
る少硝子井井さうても警備甲かど見る人
天窓の直打ううてかゝる八馬士ふも衣装
に徳にうてとろく女であれば猫を扱子も
兼知せだ破々バ喧嘩乃嘯きるとして私ガ身で共
があときうう色てといふ男れいふべき詞ふゆ
ど我身といふべ。そこふ口の明べきう。あうも二本は
る人のいふはよく似氣あく奥覺て見ゆ

とど。それも若き女の詞。あどけなきやうに
布て愛敬とたな色ども女も婆々となきて乃
詞ふ八頬あく聞苦ききあり。弥次席巻湯本
より酒色はあろ六飯上室も好物の男。日けて
女ふかけてる雪乃中。此筆とやうんと冷寒るを
を厭はず氷のうちの鯉鮒ととんと踏ぬきて
土左門とあるともあうぬ孝りあなれば女房
附に賣居ふ飛付て衆め引執うけ思ひもよう

百まうも
 こころれと
 行よ
 富 蒲
 老刀
 こころも
 三ツ子
 の
 魂
 けれ
 十字亭
 三九



又ぬしそ
 まけし
 風の
 子宝生
 子や
 その家
 福の
 神
 めき

五返舎
 半九



續
 二

ど。其夜わりのの安産。収びれ中。小悲しや鬼見
ふ。わろ強ど。七十五日ふさぐり。佛作りて魂も金
る。いとかかひど。されども詮方かれば。公中かゆ
ろ。うらむ。目と送るに。女房おうり。八如在あき上を
あ。あて。弥治郎。湯に搦嬬とどろ。ひこくと
持かろゆ。急。少。八。い。ま。に。公。解。く。志。ぶ。く
あ。ぐ。う。出。生。の。子。と。猿。松。と。名。付。て。養。育。さ。る。ふ
け。八。名。や。宮。系。り。か。り。と。て。熊。と。神。棚。へ。神。酒

と。捧。小。豆。飯。ふ。たん。魚。の。平。と。洗。け。七。近。隣。人
膳。と。く。づ。り。内。秘。ひ。と。ぞ。か。り。く。ろ。乃。深。ま。の。り。ふ
や。く。と。く。れ。は。む。の。た。だ。い。ち。う。り。さん。明。神。さ。ま。の。出。け
や。せ。う。交。度。と。あ。あ。せ。ん。コ。ヤ。ヤ。強。次。さん。お。め。で。こ。う
じ。げ。り。や。ま。と。ア。ア。そ。ん。あ。め。で。も。あ。り。や。せ。う。一。ま。い
あ。ん。か。あ。と。と。種。ハ。別。で。も。ほ。じ。て。見。や。ア。お。ま。ま。け
子。志。や。ア。秘。入。久。真。心。の。甲。や。ア。あ。ぐ。ろ。ろ。あ。る。と。あ。う
さ。の。い。ち。だ。あ。さん。ア。ヤ。強。次。さん。ご。と。ろ。と。ご。と。ろ。移。入

人トヤッ移入ガ有グて人儼さぬと建立一かぐらまど
その冥眼も出来ど。お冥帳が済移つておめめど。
あんれおとへ移入精進日ふ。着つてめめ膳ふさつて
やうあめめ。肝心のうめめめめ。まはははは
移入とつめめめ。強合が移入のよまま。おえの
戯言をうらうら。あつて。おうらさんおんおん
こと。ナトそのうちが楽とあやあや。てうど
私のうちでも。今こそ逼塞して。あんかうち

慕しまどが。私れ娘入して来ことまへは表町でね
應ふくくして。親父ごめも若盛あり。はまどを
其時分あよの男で。人さぬが源之助れやうことひ
まーとあ。忘れもあやせん。まーが十八の時場をか
結珠縞の小袖ふ。黒れ唐襦子の帯で。親父ごめ
黒袖ふ。お紋の羽織袴。あつて連立へ。祝願うち
呼とてあつて。人さぬが見て。さてもよの夫婦は
し同士で。あつて難さまはあつてと。あつてはは

又うも其時分ハ色も白。さるも路孝ハ其傳ごと評
判^たちよきこのめが。今ぐ六あまうこのたをわにあり。齒^たハ
ぬける眼^めハくきり。どじもかーあも。水溜^{しみ}里^り踏^たこんご
皮足袋^{くさぶか}の中^なうに。雜^あれよるさあり。強^ひなりうつてゆけ
まーあひも。兎角^{とく}若^わいうちぢたのーえ。あちうとご
弥次^{やじ}えん。辛抱^{しんぼう}してゆげあせ入^い。サアおうつえん。あこ
くがようア出^でかけやせうアアいまうあうめ入^いやせうア
あうんがよきのあま女あはれ。アアあまのぐんさうものゆらなり。くろあまのあま
とあちて。さる松おもかぬてうらあまきけん。あまはまきさうさきせといまか。

うちつれてアアあの中^なうに。思^し智^ちて出^でてアハ。まんざうで移^{うつ}る
分^{ぶん}ごうんアあ入^いまうの。城^{じやう}鬼^きれ飯^いを入^いるやうふ。見^みこたが
まごつまう移^{うつ}入^い小^こ後^ごハらう。心^{こころ}亮^{りやう}時^{とき}頃^{ころ}強^ひ子^こ細^こ工^こ仕^しの
らハこれバあそ。精^{せい}出^でしても張^{ちやう}合^が移^{うつ}入^いハお入^いせん入^いた
あまはせか入^いせんあ。あこご移^{うつ}入^い好^{こう}うて死^しぬよいうほじごと
思^しひかせアトきこハハニうのゆく。ちあおるやうこのたるま。みづくのこい
そらうやうこづけり。愛^{あい}りあやまをたれ 耳^{みみ}移^{うつ}入^いた去^き清^{せい}さぬハ。えと
あやまの左^{ひだり}のたを清^{せい}きやう 耳^{みみ}移^{うつ}入^いた去^き清^{せい}さぬハ。えと
どくアアや左^{ひだり}のたを清^{せい}さぬ。よくきかたうて。サアあうかせん

「まづいふもまじきやせし。ちかひ。かみちぬしきん。やぶら
きにりしそよあ。ナトせでいひかや神くイヤまのい
神つうあそくハまじりやせん。まへ引載てきてをん。
あつこの間もでいひか。それくハ大騒ぎで。さごめ
吐も安あさるしろうが。父その生息と悴の宮系りど
ころと。まじりめどくハ強なれと。まじりと内経ひふ茶
飯でも禁て。佛はあゝあびり。ひとらと。山は神が
りのまじり。小豆めり。とていひて。あぢ配ひのめじり。

幸ひ今うめつと酒があらひとらあびよふ。こく火。
ちよろとちりてくま。神くう。コイルく今強ととわして
なるがあんれ用どスト。コレ左次き清さん。ま
かさつと。二盃わげつ。み茶とそん。ひびがあるごろうの
コヤ親今よくかいで。まろそんあう。いきありん。お盆
コリヤトのらちど。イヤ内後架がゆる乃。コヤヨまぐ。あやまの
せ。まごあはかきさぬと見せて。今明神さあ。あつと
う。押付及りのやせうト。あやのまうけてあや。あやのごまう。強び

多分縁ハお尋入でござる事まじう可成りぢぢぢぢぢぢぢ
今お侍さぬがお出かきりませと一ツそれくさるをりと
とまじしてねと此る寸伯さぬれ所で初て出合こお侍
さぬが。おを後うち小茶番が何となくその相後
とぎろて相方小おひらうが松まじぢぢぢぢぢぢぢ
さる約速てありとさう。今小入るで何うト
と此れ寸白お出入のお申さこのは夜申也。まじうの玉の人あり去年
事り一お松バ。ちやせんといふこといらさうぢぢぢぢぢぢぢ
入れば寸白く文をうえに事り。此れ寸白おひて。そのあひさふ
事まじいありせし。事名ハ重を重つ。寸白さうくりとさる。まじ
と

とよこそ。さくかあぐりおきりませ。コヤハイらつてもあつた
さぬの二けるの茶番と。及みかあつた。とちりさあつた。同
道中ハ一ホ三た。今ハお土産有難い。とさる。事おひて
かけこ所。早速あつ持合せ。ゆらりはよませうト
とよこのお侍。コヤハイ。あつた。とさる。事おひて
骨があつた。とさる。事おひて。コヤハイ。あつた。とさる。事おひて
とよこのお侍。コヤハイ。あつた。とさる。事おひて。コヤハイ。あつた。とさる。事おひて

用があらう。なほしつゝいふがあらう。その坊さぬれ名を
なましまし。しが。は坊さぬれむあいのやうに。疝氣でと
らうもあつ。金玉れ大まかんとひらふと。兼てまゐりて
あつ。まゝしつゝ。そのお寺人らう。モろく名はまじれま
らう。お寺人。金玉の大きき坊さぬれが。お出あされま
らうと尋らう。それいひらふは。毫滌堂にぬる。あそあ
らう。お寺とひらう。其お堂人らうて。あつ。坊さぬれま
らう。お草とひらう。おの。お堂人。金玉れ大まか。

坊さぬれおまゐらうとまゐらう。今ままでそこらぬらう。
それ金玉とまゐらう。あつ。坊さぬれまゐらう。遠くへいひま
らう。今ふきぬせうとひらう。お堂にあらう。座
蒲団にあらう。お堂にあらう。大まかおまゐらう。ら
あつ。お堂にあらう。お堂にあらう。お堂にあらう。お
らうと。待ともくまゐせぬらう。よくへいひまゐらう。
あつ。金玉とあらう。お堂にあらう。大まかひらう。
お堂にあらう。お堂にあらう。お堂にあらう。お堂にあらう。

ちがぐできしゆくとつひのた。サあてし屍ハオホきこつてい
 かる。せめて足とぐらとあんだてぐらして。きまじりあせ
 けし。あしとあしせいしよ。ぢまひあしヤアアヤあしよ。あ
 もかもできしゆとちつちあ。足とあししよ。あぢま
 やせぬ。あしハカせごらあにあし。あしあしあしあしあし
 イト今ぐぢあまがあんあにあし。あしあしあしあしあし
 さしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 出さじこてヤ外園がヨク。あしあしあしあしあしあしあし
 出さじこてヤ外園がヨク。あしあしあしあしあしあしあし

かさじゆバの糸。アハイアア。如左ハなみぐあしあし
 あのとく足袋ハ出来合あアあし。あしあしあしあしあし
 糸ヤアア。出来合に糸あしあしあしあしあしあしあし
 あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 片縫で。右れあしあし。あしあしあしあしあしあしあし
 たびとあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 と。十一文と一足あしあし。あしあしあしあしあしあし
 あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし



金鈴舎
一室

あし
ひけ

くわ
そと

妻の目の
長尻
上戸



茶
狂
返

長尻
の

うちりれ
笠市あり
九返舎
一八

ヤア、^は當地ハ^よ大都會^ので廣^いとえどた。そんな^かびの
出来^で合^めが^ある^いどと^あり^しど。カ^を一^あの^ヤヤ^十二
りた江戸が^ある^いどと^あり^しど。大^きの^とち^のと^あり^しと^あり^し
い^つそ^くあ^いし^ど足^袋ハ^ある^まの^いヤ^ある^も志^まと^あり^し
廿^二村^松町^へい^つて^えか^さの^腰の^あの^と長^いの^と
短^いの^とと。い^つそ^くふ^しと^れが^出来^合ふ^あの^金と^あり^し
その^いづ^れの^長家^らち^にも。二^ちち^との^いか^んと^あり^し
角^力取^と見^るや^うか。大^きな^はた^うて^の男^でた^けを

四^尺を^守着^るの^とい^ふが^その^内儀^ハち^ろろ^にけ^かと^あり^し
ち^ろろ^に二^尺れ^たけ^での^きづ^る。い^ふこと^とあ^らむ^も四^尺
を^守と^いふ^人と^と。い^つそ^くあ^いし^どま^ぬで^あり^ます
あ^のと^いふ^人が^智恵^とあ^らむ^もヤ^マを^せう^ら。そ^の十^文
ま^のた^びと。十^文の^いび^と一^豆づ^つも^買あ^らむ^も二^兩
あ^らむ^もい^つそ^くあ^らむ^もい^つそ^くあ^らむ^もい^つそ^くあ^らむ^も
も^その^まる^いん^ぶえ^んで。二^そく^の足^袋が^あら^むも^あら^む
不^用ふ^ある^もあ^らむ^もい^つそ^くあ^らむ^もい^つそ^くあ^らむ^も

かろく女房。まこと小殺言の盛一と晩。あゝ入あり。
何一も入るはなまじく。子とひり出しやうしてその
お入。これをていへ喰しとてお出で。かうくのこととて夕
夜をどめて完務の掃除して。しほくうのめと入る
よとまる西と。外へひりてうらまるも。あんまりの習志
う強ん志ややわらう。のみきこハハそふさ。おのめと何の
めで。生が親うとんとて悦文といふも。親がごまふ
ぬる中。死ぶる生ておる。志まも志強めめと梅め

ておろううら。其手ハ素名れ焼蛇と。志まもてや
かせかす白イヤそふハいらつ移あさるある。其親父おやちが園の
外と志まらつて。今素志をうさめ。研ふ居いの根子。
今躬素志をうさめ。供とてきていづこめおやぢ
くらひ倒れこれいけ移入ゆと。ナニもか娘おんなごまき
のうら入踏込で首筋入繩を洗けてありと。ひき
洗つてまぬせうと。駈出かきだしとふふまらううら待か
せ入おんな一巻うら一擧合ませうと。むどふまらひ方ふはせと

やこちり

手と

く

たまり

かろう

の

てう

の

の

生

の

の

愚舎

一得



校りも

の

の

か

の

子代

の

松坂

の

の

東寧舎一河



